

◆無事故へGO！ 導入効果シミュレーション資料（トラック）

前提条件
1営業所： 2営業所
1営業所あたり： 50人
総ドライバー数： 100人
労働生産性×70％： 3,000円/h

【1.管理職工数と機会損失】				御社の費用対効果				
				削減工数		費用対効果		効果額
No.	項目	従来対応	システム対応	従来	新	従来	新	
1	年間計画書作成	・ExcelやWordで教育指導の年間計画書を作成する(3h)×営業所数	・計画書欄を1クリック	6.0h	0.0h	¥18,000	¥0	¥18,000
2	国交省配布資料印刷	・国交省が配布する『一般的な指導及び監督の実施マニュアル』を印刷する ・全ドライバーに配布する ・全146ページ	・納品時にラミネート資料にて監査項目ごとの資料を配布(印刷2ページ×12項目)	4.1h	0.0h	¥12,240	¥0	¥12,240
3	紙削減	・146枚×(ドライバー数+1/管理者用)×10円	紙不要	14,892枚	0枚	¥148,920	¥0	¥148,920
4	教育実施	・ドライバーが全員揃うまで待機（30分/月） ・読み聞かせによる教育実施（30分/月）	・運行管理者による概要説明（3分/月） ・待機時間中にV R 動画を視聴	24.0h	1.2h	¥72,000	¥3,600	¥68,400
5	教育記録の管理と確認	・書類をファイルで管理する（5分/月） ・過去のファイルは書庫から取り出す(15分/月)	・月別のドライバー別進捗状況を1クリックする	8.0h	0.0h	¥24,000	¥0	¥24,000
6	ドライバー未実施者の再教育	・ファイルから未実施者が誰かを特定する（10分/月） ・対象ドライバーが全員揃うまで待機（30分/月） ・対象ドライバーに読み聞かせの教育を行う(30分/月)	・月別のドライバー別進捗状況を1クリックする ・対象ドライバーに概要を説明する(3分/月） ・対象ドライバーが空き時間にV R を視聴する	28.0h	1.2h	¥84,000	¥3,600	¥80,400
7	監査対応準備	・書類の不備チェック ・書類が格納されたD B の位置を確認 ・書庫から必要な書類の取り出し ⇒（3h）	・システムからcsvを出力する	6.0h	0.06h	¥18,000	¥180	¥17,820
8	監査対応	監査当日に書類にて質疑応答を実施（2h）	監査当日、画面にて質疑応答を実施	4.0h	2.0h	¥12,000	¥6,000	¥6,000
9	監査後のフィードバック管理	監査後のフィードバック書類をファイルで管理する(10分)	システムで管理する	0.3h	0.0h	¥960	¥120	¥840
			小計	80.4h	4.5h	¥390,120	¥13,500	¥376,620

【2.ドライバー工数と機会損失】				御社の費用対効果				
				削減工数		費用対効果		効果額
No.	項目	従来対応	システム対応	従来	新	従来	新	
1	教育実施（一度の教育の達成率を90%と仮定）	・対象ドライバーが全員揃うまで待機（30分/月）×総ドライバー人数90%×3分の1×12カ月 ・読み聞かせによる教育実施（30分/月）×総ドライバー人数90%×12カ月	・指導員による概要説明（3分/月）×総ドライバー人数90%×12カ月 ・待機時間中にV R動画を視聴（5分/月）×総ドライバー人数90%×12カ月	720.0h	140.4h	¥2,160,000	¥421,200	¥1,738,800
2	未実施者の再教育（No.1の残り10%）	・対象ドライバーが全員揃うまで待機（30分/月）×総ドライバー人数10%×3分の1×12カ月 ・対象ドライバーに読み聞かせの教育を行う(30分/月）×総ドライバー人数10%×12カ月	・指導員による概要説明(3分/月）×総ドライバー人数10%×12カ月 ・対象ドライバーが空き時間にV Rを視聴する(5分/月）×総ドライバー人数10%×12カ月	80.0h	15.6h	¥240,000	¥46,800	¥193,200
			小計	800.0h	156.0h	¥2,400,000	¥468,000	¥1,932,000

【3.事故時の対応工数と機会損失】				御社の費用対効果					
				削減工数		費用対効果		効果額	
No.	項目	事故件数とトラック数	VR学習効果	従来	新	従来	新		
1	【直接損害】 ・財物、人身、賠償損害 【間接損害】 ・事故処理経費、賃金ロス、 収益低下、数値化不能障害	・ドライバー従事者830,000人（2020年） ・死傷事故件数18,254件/年(2016年） 出典：トラック協会 ⇒1人当たり年間2.2%の確率で事故が発生 ・1台当たり事故費（内訳は左記）は、 822,000円/件 出典：Logibiz	・講義後の自分への行動への自信は275% ・コンテンツへの心理的な結びつきは講義形式の3.75倍 ・学習への集中はE-ランニングの4倍 ⇒学習効果によって事故が4分の1に減少すると試算 ＊出典：PwCコンサルティング	2.2件	0.6件	¥1,808,400	¥452,100	¥1,356,300	
				小計	2.2件	0.6件	¥1,808,400	¥452,100	¥1,356,300

【4.離職率の防止による費用効果】				御社の費用対効果				
				削減工数		費用対効果		効果額
				従来	新	従来	新	
No.	項目	新規採用者の離職率と利益率等	VR学習による離職率の防止と機会損失					
1	離職防止による採用費ロス削減	【新規採用者数】既存ドライバー数×3%と仮定 【採用単価】新卒1人当たり53.4万円(出典：マイナビ) 【運輸業界の3年以内離職率】離職率40%（厚生労働省）⇒新規採用数×40%	研修体制が整っていないことが原因（13%） 出典：株式会社ZUZU調べ	1.2人	0.8人	¥640,800	¥432,540	¥208,260
2	機会損失	【トラック1台当たりの利益率】5%（出典：物流Weekly） 【トラック1台の売り上げ】3万円と仮定（運送会計.com） 【稼働日】312日（日曜日のみ休日）	機会損失額 =3万円(売上高/日）×312日×5%×採用人数(ドライバー人数×3%）×離職割合（27%）	-	-	¥561,600	¥379,080	¥182,520
			小計	1.2人	0.8人	¥1,202,400	¥811,620	¥390,780

効果総計 ¥4,055,700